

## ルカの福音書 第13章 30節

「いいですか、今しんがりの者があとで先頭になり、いま先頭の者がしんがりとなるのです。」

始めのことばは、強く諭す響きがある。それもそのはず、自分を主張し、お語りになる主の言葉を聞かず、そのころを受けていないからである。自我を突き出す者たちの顛末であり、主からの警告である。

最近度々登場している。これからもしばらく登場するであろうベランダの薔薇が、今咲いている。一つの枝にあまり間隔無く三つの薔薇が横並びでついた。そのうち真ん中の花が開き、大輪となった。両側の薔薇を覆うような形となる。両側の薔薇にとっては日傘となってしまおうような位置となる。両端の薔薇がこれから伸びてゆくには大部窮屈ではないかと思いながら愛でる。

そのうち、両側の薔薇の茎が伸びて、真ん中の大輪を越える高さになる。そこで両側の薔薇は陽を浴びて少しずつ開き始める。やがて、一つの枝に、三つの薔薇の花が横並びで開花した。最後は、先頭もなく、しんがりもなく、横並びで見事な大輪を咲かせた。

花のことだから、自我もなにもない。ただ、あるのは自然のなかで、置かれたところで開く命、美である。